

(様式16)

研修等 報告書

平成 29年 5月 31日

三田市議会議長

平野 菅子 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	公明党	代表者	私用信箋 [黒塗り]
参加者氏名	大西 雅子		[黒塗り]
講演会等研修名	TRCセミナー		
研修事項	・「公共施設問題を突破する行政経営モデルとは」		
日 時	平成 29年 5月 17日 (水曜日) PM13:00~16:00		
場 所	図書館流通センター 大阪支社		
所 見	別紙記載		
添付資料	・ 公共施設マネジメント 突破する経営モデルとは ・ 政策を見る眼		

6 添付書類 (講演会内容のパンフレット等)

■所見

全国的に少子高齢者化が加速するなか、本市においても少子高齢化に伴う税収の減少。また国からの交付金の減少する状況下、健全財政を保持していくための中期財政収支見直しを更新した。

歳出の増加要因としては、扶助費や介護保険・後期高齢者医療給付費等を見込んでいる。また公共施設のあり方についても今後大きな課題であることから、三田市においても平成27年11月に「公共施設白書」。平成28年5月に「インフラ白書」。そして、平成28年度末に「三田市公共施設総合管理計画」を策定し、平成29年4月より各々の施設を、具体的に今後どうしていくのか、マネジメントについて協議を行い、計画を策定していくことになっている。

今回参加した研修会では、施設の民営化や統合による面積の縮減だけではなく、施設の利活用による財源確保対策についての話を聞き大変勉強になった。

その1つ目は、公共施設の包括管理。香川県まんのう町をはじめ、我孫子市、流山市などは、公共施設の保守点検業務を一括委託している。一本化することで安全点検と経費削減を行っている。

委託業務を進めるにあたり、誰が施設の安全管理に責任をもつのか。仕様書の内容は詳細に書き留めることが大事である。書き込むことによって、老朽化による大事故を防ぎ、安全を確保した施設を提供する市としての責務を果たすことに繋がるからである。

2つ目は、公共施設の利用実態を分析したうえで、市民サービスを低下させずにコスト削減を実施する取り組み。この1例としてあげられたのが、小中学校のプールである。学校のプールは、全国で87%の設置率であるが、実際に稼働しているのは、年に1ヶ月程度である。千葉県佐倉市では、稼働率が少ない学校プールを撤廃させ、水泳の授業を市内のスイミングスクールを活用している。民間施設を活用していることから、教師に加えて、スクールのインストラクターが水泳指導に当たるため、泳力がついたと児童や保護者から好評のようである。室内プールであることから、天候に左右されないこと。学校関係者からは安全管理面での負担が軽減。衛生管理などの面で安心した環境で授業が実施できているようである。学校敷地内にプールがないことから送迎が必要であるが、佐倉市では市内の小中学校34校にあるプールを撤廃すると、従来通りにプールを維持管理し、老朽化すれば造り替える場合と比べると、30年間で13億6,000万円の削減できるようである。しかし実際受け入れ事業者がいないと出来ない取り組みであるが、本市においても今後、学校プールのあり方についても検討していく価値があると感じた。

3つ目は、逆に学校施設を市民への貸し出しである。昨今防音室のニーズが高まっているようである。そこで防音対策のある学校の音楽室を市民に貸し出しをするという方策もある。その他にも市役所の駐車場にコンビニを誘致。福祉施設に特定郵便局を設置など、「運営」から「経営」への発想の転換。本市においても固定資産台帳で正確な情報把握しながら、市の特性を活かした新たな発想の公共施設マネジメント計画を立てていくことが重要であると感じた。

4つ目は、施設機能の複合化。性格の異なる複数施設は指定管理が最適のようであるが、

直営も含めた官民連携で魅力ある施設にすることが最重要であると考えている。これから進めていく協議において、様々な角度から施設のあり方を考え、計画を策定して戴きたい。

公共施設問題を突破する 行政経営モデルとは

図書館総合研究所

【講師】 南 学 東洋大学客員教授

【進行】 13:00 開会
13:10-14:30 講義と質疑
14:30-14:40 休憩
14:40-16:00 講義と質疑
16:00 閉会

【日時】 2017年5月17日(水)13:00-16:00

【会場】 図書館流通センター 大阪支社 研修室（吹田市広芝町18-24）

- 【資料】
1. 公共施設マネジメント 突破する経営モデルとは
 2. マネジメントの実践（運動）論からの視点（上・下）